

三康文化研究所

研究員

オススメ本コーナー

「仏教と鐘」

2023年度第1回公開講座(5月22日開催予定)では「仏教と鐘」についてお話ししたいと思います。

鐘は仏教と深く結びついています。

初期仏教では静寂を旨としていましたが、教団が大きくなるにつれ、合図の道具として使用され始めました。

大乘仏教では、初期仏教での合図の道具としての役割に加え、祇園精舎の鐘のごとく「無常の響き」となり、あるいは仏の名が奏でられたり、除夜の鐘のように「滅苦」の意味も帯びるに至ります。

また、キリスト教の鐘が6世紀、仏教から伝播したことについても取り上げようと考えています。

オススメ本は公開講座に関連する拙著の2冊をご紹介します。

・『修行僧の持ち物の歴史』山喜房仏書林

(三康図書館請求記号:186.3-N84)

・『ブッダの冠-仏・菩薩の持ち物考-』大法輪閣

(三康図書館請求記号:186.3-N84)

第9回 研究員のオススメ本紹介コーナー

〈仏教と鐘〉

今回ご紹介する三康文化研究所研究員は…!



西村 実則 (にしむら みつあき)

専門分野: 釈尊伝・印度部派仏教・近代仏教学の確立

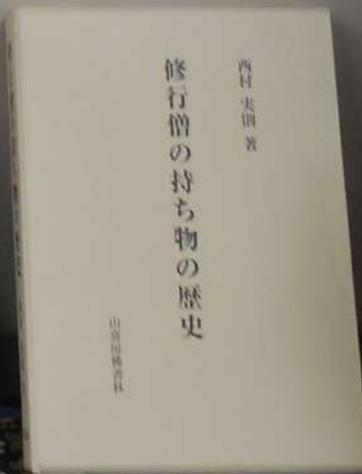
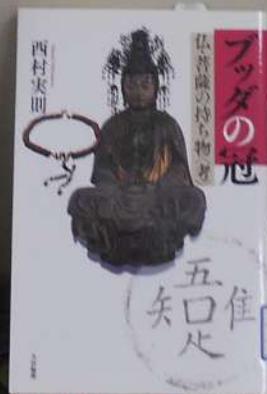
2023年度第1回公開講座にて「仏教と鐘」と題して講演予定です。講演の先駆けとして関連する本を2冊ご紹介いたします。

・『修行僧の持ち物の歴史』

・『ブッダの冠-仏・菩薩の持ち物考-』

・『修行僧の持ち物の歴史』のオーディオブック

仏教における鐘の起源と意味を一冊で考えようとする。



西村研究員による選書コーナー

「仏教と鐘」

2023年度第1回公開講座(5月22日開催予定)では「仏教と鐘」についてお話したいと思います。

鐘は仏教と深く結びついています。

初期仏教では静寂を旨としていましたが、教団が大きくなるにつれ、合図の道具として使用され始めました。

大乘仏教では、初期仏教での合図の道具としての役割に加え、祇園精舎の鐘のごとく「無常の響き」となり、あるいは仏の名が奏でられたり、除夜の鐘のように「滅苦」の意味も帯びるに至ります。

また、キリスト教の鐘が6世紀、仏教から伝播したことについても取り上げようと考えています。

オススメ本は公開講座に関連する拙著の2冊をご紹介します。

(西村 実則)

・『**修行僧の持ち物の歴史**』山喜房仏書林

(三康図書館請求記号:186.3-N84)

・『**ブッダの冠ー仏・菩薩の持ち物考ー**』大法輪閣

(三康図書館請求記号:186.3-N84)